

「内部被ばく検査中間報告」を開催

■放射能講演会

市では平成24年7月7日以降、4歳児から中学3年生までの約8500人を対象に、福島県の震災復興支援放射能対策研究所(ひらた中央病院内)で放射能の内部被ばく検査(ホールボディカウンタ検査)を実施しています。9月末で対象者の約半数(3987人)の受診が終了し、**全員が検出されませんでした。**

そこで10月4日、市では内部被ばく検査の中間報告と検査実施から見てきた「牛久市の現状」「健康に与える影響」「今後の予防対策」を市民の皆さんにお伝えするため、坪倉正治先生(東京大学医



講演する坪倉正治先生



熱心に話を聞く来場者たち

【表1. 内部被ばく検査中間結果】

検査実施人数	検査結果
3,987人	全員不検出

科学研究所研究員)を講師に迎え、放射能講演会を開催。当日は、約400人が来場しました。講演では、来場者から放射能への疑問や質問があり、また牛久市と福島県南相馬市のデータを比較して、内部被ばくについて実際に放射線量の高い南相馬市の病院で診療をしている先生ならではの生の声で、分かりやすく説明していただきました。

さらに、今後の予防策として「内部被ばくを防ぐ一番の対策は食べ物に注意すること」「外で遊んだら手洗い・うがいをきちんとすること」など、実際に役立つアドバイスもいただきました。

内部被ばくの主な要因は「食べ物」

市内の「食」状況を見てみましょう

①陰膳検査結果

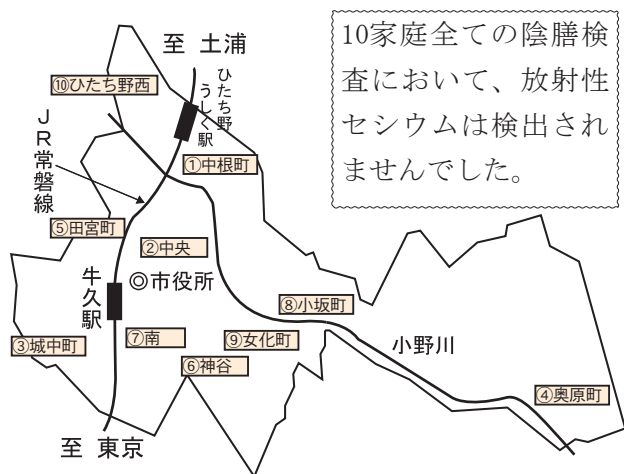
実際に市民が食べたものにどれくらいの放射性物質が含まれていたかを検査しました。

市内全域で10家庭のご協力を得て、毎回の食事を1食分多く作っていただき、2日間6食分を測定しました。奥原町、中根町のご家庭はほとんどが自家栽培でしたが、**全て放射性セシウムは不検出でした。**

②保育園給食ミキサー検査結果

学校・保育園の給食については、毎日順番に食前の検査を実施しています。今回は、全保育園の1週間分の給食を、検出下限値を1kg当たり1ベクレル以下に下げたゲルマニウム検査で実施しました。測定したデータは左記表2のとおり、**全保育園で不検出でした。**

【図1. 陰膳検査結果】



【表2. 保育園給食ミキサー検査結果】

保育園名	①セシウム134 (下限値: Bq/kg)	②セシウム137 (下限値: Bq/kg)
上町保育園	不検出(0.62359)	不検出(0.67024)
つつじが丘保育園	不検出(0.74870)	不検出(0.76369)
向原保育園	不検出(0.51981)	不検出(0.64340)
下根保育園	不検出(0.81335)	不検出(0.78976)
栄町保育園	不検出(0.83170)	不検出(0.56422)
中央保育園	不検出(0.69468)	不検出(0.59983)

※検出器名: P型ゲルマニウム半導体検出器

CANBERRA 社製 GC2018-7500SL-2002CSL